

2017年3月6日

放送倫理・番組向上機構
放送倫理検証委員会 御中

株式会社 TBSテレビ

放送倫理検証委員会決定後の取り組みについて

当社が制作している「珍種目 No.1 は誰だ!? ピラミッド・ダービー」の2016年6月19日放送について、2016年12月6日、貴委員会より「出演者に対する敬意や配慮を著しく欠いた編集を行った」として、放送倫理違反があったとの意見を受けました。(放送倫理検証委員会決定 第24号)

番組に協力していただいた出演者への説明はどうあるべきなのか、自由闊達に意見・疑問をぶつけられる制作環境をどう作っていくのか、制作現場の分業化の中で局はどう役割を果たしていくべきなのか、貴委員会の審議・意見書、そして意見交換を通じて、当該番組スタッフのみならず当社の番組制作に関わる多くの人間が、様々な立場で新たに考えはじめるきっかけになったと受け止めています。

以下、今回の決定を受けた当社の対応と取り組みについて、ご報告します。

1 委員会決定に伴う放送対応

委員会からの意見を受けて当社では、以下のような放送対応を行いました。

- (1) 当日のニュース番組「Nスタ」および「ニュース23」内で、意見の概要と当社のコメントを放送しました。

(放送したコメント全文)

TBSテレビのバラエティ番組「ピラミッド・ダービー」が編集で出演者の姿を画面から消した問題で、BPO＝放送倫理・番組向上機構は、放送倫理違反があった、という意見を発表しました。

問題になったのは6月19日放送の「ピラミッド・ダービー」で、双子が入れ替わったかどうか、を当てるクイズです。

TBSは出演者の了解を得ないままクイズのルールを変更。出演者の1人が途中で脱落した形に変えるとともに、編集の段階でその姿を画面から消していました。

この出演者の抗議に対しTBSも「行きすぎた編集があった」と認め謝罪しています。この問題についてBPOは「出演者に対する敬意や配慮を著しく欠いた編集を行った」と指摘。放送倫理違反だったという判断を示すとともに、出演者との信頼関係のあり方について、スタッフどうして議論を深めるよう求めています。

BPOの指摘についてTBSは「委員会の指摘を重く受け止め、今後とも幅広い世代に楽しんでいただける番組制作に努めて参ります」とコメントしています。

この内容は上記のニュース番組に加えて、当社のCS放送「TBSニューズバード」において合計6回放送したほか、インターネットニュース「News i」にも、当日（12月6日）から1週間（12月12日まで）掲載しました。

さらに、2016年12月25日の「TBSレビュー」でも同様の内容を放送していません。

（2）番組ホームページでの告知

当該番組「ピラミッド・ダービー」は、番組公式ホームページで、委員会決定を受けた翌日から以下の内容を掲載しました。

（番組のホームページに掲載したコメント全文）

6月19日放送の「ピラミッド・ダービー」に関して、12月6日、BPO=放送倫理・番組向上機構の放送倫理検証委員会から、出演者に対する敬意や配慮を著しく欠いたとして放送倫理違反があったとの意見を受けました。

問題になったのは、19日放送の「双子見極めダービー」のコーナーです。

このコーナーでは、最後の質問で得点が最下位だった出演者を、ご本人への説明や了解を得ることなく画像加工し「脱落」として姿を消す編集をしていました。放送後、この出演者からの抗議に対しお詫びしていますが、番組では、BPOからの指摘を重く受け止め、今後とも幅広い世代の視聴者に楽しんでいただける番組制作に努めて参ります。

2 委員会決定の社内周知

委員会からの意見を受けて、当社では以下のように社内周知しました。

（1）制作局内での取り組み

当該番組を制作している制作局では、スタッフ（プロデューサー、ディレクター、AD）に対して、委員会決定公表翌日の12月7日、制作一部会、制作二部会において、放送倫理検証委員会からの「意見書」を配布したうえでポイントを説明し、その後意見交換を行って問題の共有に努めました。

これに加えて、12月14日、制作局内の全番組のプロデューサーが出席するプロデューサー会議において、委員会決定の趣旨と内容を再確認し、各番組で共有するよう徹底しました。

(2) 「番組審議会」への報告

「番組審議会」でも、2度にわたってこの問題を取り上げました。7月19日には、放送倫理検証委員会での審議入りをうけて、TBSから問題の要旨を説明しました。また12月19日、委員会決定をうけて、あらためて委員からのご意見をいただきました。

委員からは、

「放送局の価値は、何といたっても番組で高めていくべきで、BPOの指摘を真摯に受け止め、再発防止に努めていただきたい」

などの指摘がありました。

(3) 「放送と人権」特別委員会での議論

「放送と人権」特別委員会は外部の有識者を招いて、放送上の人権問題について意見を求めるものです。2016年10月7日開催の委員会でこの問題を議論するとともに、12月9日開催の委員会では、意見書をもとにあらためて話し合いました。

委員からは、

・「制作者には、番組が本当に面白くなっていないんじゃないかという『恐怖』と『自信のなさ』はつきもので、その恐怖のあまり、時に誤った方向に進むことがある。しかし、これを正してくれるのは一緒に制作している仲間とのコミュニケーションではないか。今回、そのコミュニケーションがなかったことが、とても残念」

などの指摘がありました。

(4) 「放送倫理委員会」での取り組み

番組の放送倫理上の問題を話し合う社内組織である「放送倫理委員会」では、12月21日、今回の意見を取り上げました。コンプライアンス室が、あらためて意見の骨子について解説し、当該番組のプロデューサーが制作現場としての見解を述べるとともに、その後の再発防止の取り組みについて説明しました。

放送倫理委員会は、編成局やコンプライアンス室、報道局、制作局、営業局などの幹部から構成され、放送倫理や人権にかかわる問題を社内横断的に討議するもので、この場での議論を通じて、意見内容の全社的な周知を図りました。

(5) 全社員へ意見書を全文を配布

12月12日、総務局長とコンプライアンス室長が全社員に向けてあらためて「意見書」全文をメールで配布しました。社員一人一人が、BPOからの指摘を受け止め、今後の番組作りに生かし、TBSの番組への信頼を取り戻そうというものでした。

3 意見について勉強会の開催

当社では意見を受けて、貴委員会との「研修・意見交換会」を実施しました。

2017年1月16日に、貴委員会より中野剛委員、岸本葉子委員、鈴木嘉一委員を招いての「研修・意見交換会」を開催しました。

「研修・意見交換会」には当該の制作局を中心に100人あまりが参加しました。

この場では、出席の3委員から意見書のポイントや判断の理由について詳しい説明を受けた後で、3人の委員と、制作局の若手ディレクターやプロデューサー、番組を統括する部長など5人がパネルディスカッションの形式で意見交換するとともに、会合参加者との質疑応答を行いました。

論点は、今回の委員会決定で指摘された

- ・「出演者に対する敬意、配慮を欠いていた」
- ・「スタッフ間の情報共有ができていなかった」
- ・「意見を言いにくい番組制作環境」
- ・「局の存在感の希薄さと、その危うさ」

などの点を中心でした。

BPOの委員からは、

- ・「放送に出てもらった人を放送で傷つけるなどということ本来はありえない。しかも、途中で姿を消されたのは、タレントとも、テレビ業界の人とも言えない専門家で、番組とおつきあいがなかった人物だ。より注意が必要だったのではないか」
- ・「出演者との言葉のやりとりだけでなく、感触にまで気を配ることができるプロの放送人であって欲しい」
- ・「若い人の自己規制をはずして発言しやすい環境を作ってやるのが、年長者の役割ではないか」

などの指摘や励ましがありました。

また、TBS側の参加者からは以下のような具体的な疑問や意見が出されました。

- ・「出演者への事前説明なしに出演者の姿を消すような編集はもってのほかだが、では出演者の了解があれば出演者の姿を消す編集はアリなのか」
- ・「人を消すのは生理的な感覚としてダメだという人もいれば、そうでないという人もいる。では人でなければいいのか、どんな場合なら映像を消去することは是とされるのか」
- ・「スタッフ間の情報共有不足は、制作の分業化に伴う制作現場に共通するリスク。だからこそ、全体像を一貫して把握したうえで判断して指示する『軸』として、局のプロデューサーをはじめ局員の役割は重い」

こうした疑問や意見についての活発な議論は、「意見書」を表面的に捉えるのではなく、その真意をより深く理解し共有する上で役立つこととなりました。

4 総括

笑いや感動など、人間の様々な思いを汲み取って視聴者に伝えるプロであるはずの番組制作者たちが、今回出演者の気持ちに思いを馳せることができずに番組に協力していただいた出演者への敬意を欠き傷つけることになりました。しかも制作過程で、多くのスタッフが問題に気がつくチャンスがあったのに、チーム全体として見落としてしまう結果となりました。大変残念で、痛恨の思いです。

制作局では、今回の問題を受けて、2016年7月12日に再発防止策を策定し、取り組みを始めました。

その骨子は、

- ・制作スタッフによる報告・連絡・相談を徹底すること。

さらに局プロデューサーの番組への関与を強めるべく

- ・ロケの前にはロケ台本を局プロデューサーと総合演出がチェックする会議を設置する。
- ・ロケ担当ディレクターはロケチェックシートを提出し、局プロデューサー、総合演出などが確認する。

- ・各編集段階でのVTRのチェックは総合演出だけでなく局プロデューサーが加わる。

などの具体策を実行しています。今後とも、再発防止の効果を不断に点検し改善をはかってまいります。

番組の再発防止策について、貴意見書では

「この対応策によって、本件放送のようなスタッフ間の情報共有不足に起因する問題の発生はある程度防ぐことができると思われる。しかし、最も重要なことは、制作スタッフが番組づくりのプロとして緊張感を持ちつつ、スタッフ間で率直に意見が言い合える風通しの良い制作環境を定着させることではないか」と指摘されています。

自由闊達に意見・疑問をぶつけられる制作環境をどう作っていくのかは、当該番組だけでなく、当社のすべての制作現場に共通の課題であると受け止めています。

貴意見書は、最後はこのように締めくくられていました。

「視聴者が心から楽しめるようにするために、制作者は細心の注意を払って面白さを追求する必要がある。そこがバラエティー番組制作者の腕の見せどころであり、やりがいの源泉でもあろう。『ピラミッド・ダービー』は、幅広い世代に向けて理屈抜きで楽しめるひとときの提供をめざしている。視聴者や出演者が心から楽しめて、番組制作者も作る喜びを味わえるような『珍種目』の登場を期待している」

このメッセージに応えるためにも、当社では、番組協力いただく出演者ともそして視聴者とも強固な信頼関係を築き上げられるよう一層の努力を重ね、より多くの視聴者に安心して楽しんでいただける番組作りに取り組んでまいります。